



カルピス社の“心の健康”研究 進捗報告  
「カルピス」を親子で一緒につくって\*1 飲む体験が  
親子のコミュニケーションを生み出し  
子どものすこやかな心の成長に貢献することを確認

日本発達心理学会第26回大会(3月20~22日/東京)にて発表

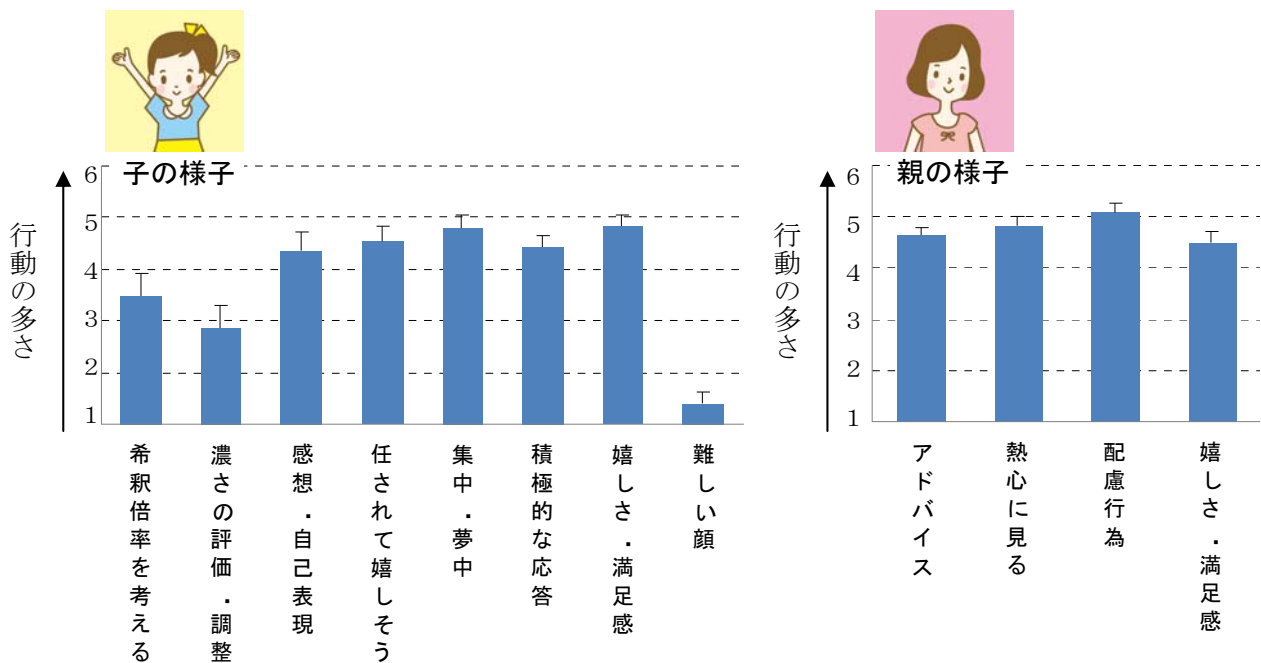
## 参考資料

## 【観察調査結果の詳細】

### 1. 行動評価項目

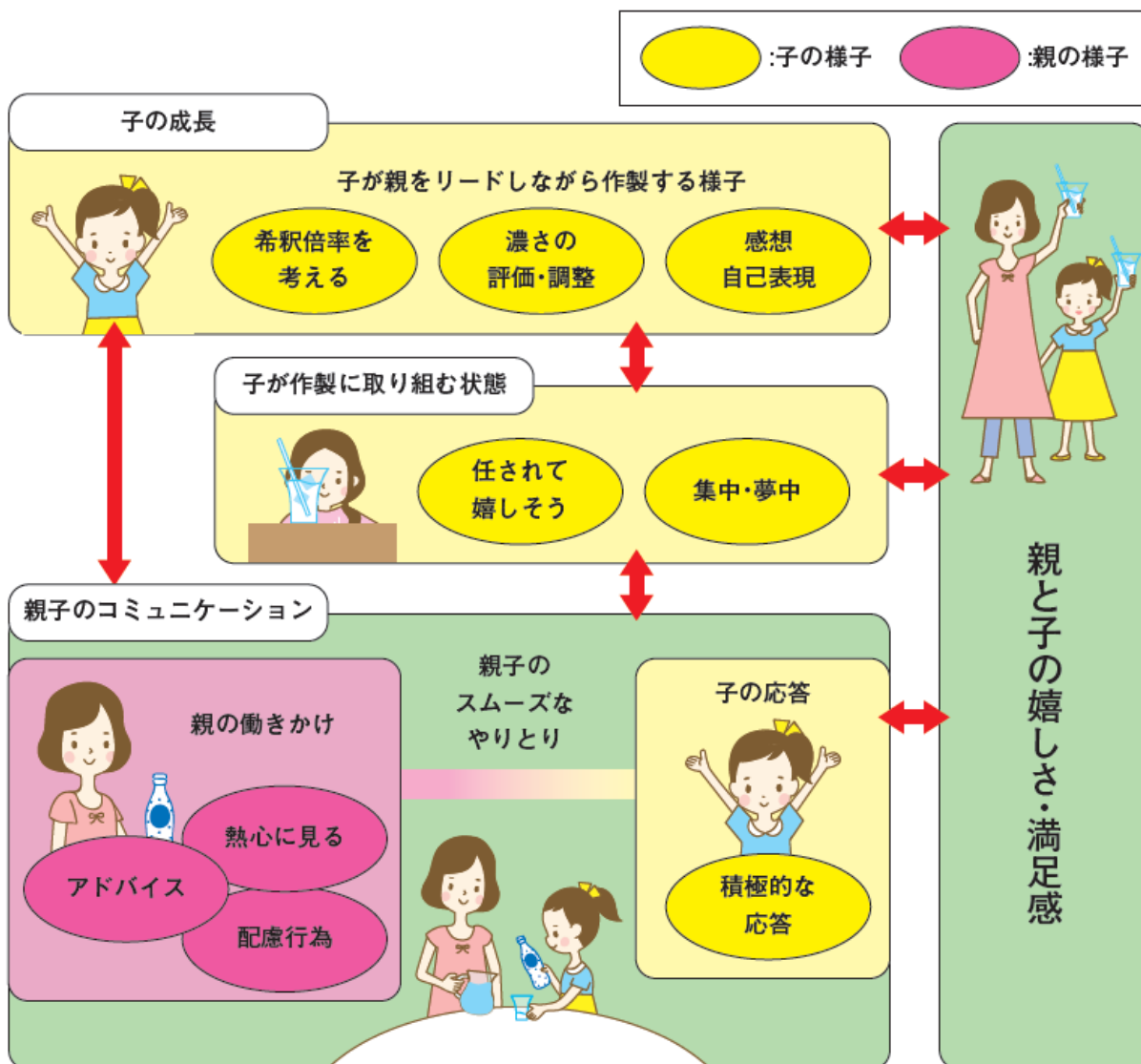
	項目	説明
<b>子</b> 	希釈倍率を考える	作製前に、希釈倍率などについて考えたか
	濃さの評価・調整	濃さの調整において、自己評価・修正したか
	感想・自己表現	自分の感想を述べるなど、自己表現がみられたか
	任されて嬉しそう	自分に任されていることが嬉しそうであったか
	集中・夢中	「カルピス」をつくることに集中し、夢中になっていたか
	積極的な応答	質問や感想を求められたとき、積極的に応答していたか
	嬉しさ・満足感	全般的に、嬉しさや満足感がみられたか
	難しい顔	難しい顔(心配そうな顔、不安そうな顔)をみせていたか
	他 11 項目 (計 19 項目)	
<b>親</b> 	アドバイス	子どもの立場で提案やアドバイスができていたか
	熱心に見る	親自身が、子どもを熱心にみていたか
	配慮行為	全般的に、子どもの活動を尊重すべく配慮していたか
	嬉しさ・満足感	全般的に、親自身に嬉しさや満足感がみられたか
	他 14 項目 (計 18 項目)	

### 2. 親と子の様子の特徴



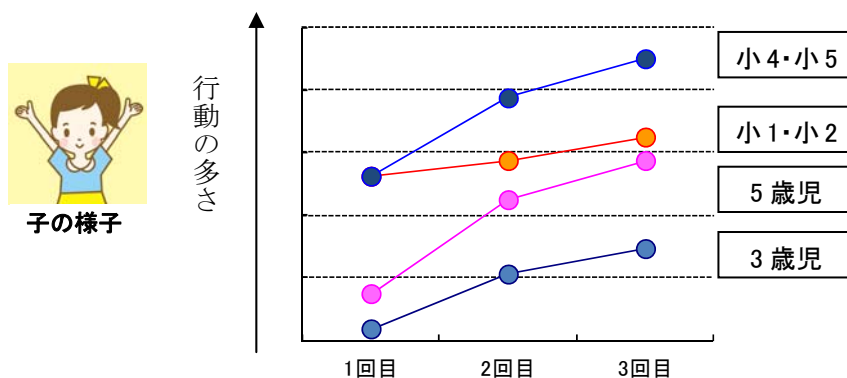
※子や親の行動を 1 から 6 までのスコアで評定した平均値 (1 : まったくない ⇄ 6 : 非常にある)

### 3. 親子それぞれの特徴的な様子とその関連性(詳細)



### 4. 体験を繰り返すことによる子の変化

最初は親に教えてもらいながら繰り返すたびに、「カルピス」や水をどの程度入れればよいか、自分自身で考えて作る様子が多くなっていきます。またこの変化は、3歳の小さなお子様から、小4・小5の大きいお子様まで、幅広い年代にみられました。



子が「希釈倍率について考える」様子の変化